

様式第4号（第11項関係）

西脇市審議会等の会議の記録

審議会等の名称	第3回西脇市総合計画審議会
開催日時	平成29年12月1日（金） 午前10時00分～正午
開催場所	西脇市生涯学習まちづくりセンター3階
出席委員の 氏名又は人数	14名
欠席委員の 氏名又は人数	4名
出席職員の職・ 氏名又は人数	事務局4名
公開・非公開 の別	公開
非公開の理由	
傍聴人の数	2名
議題又は 協議事項	1 総合計画策定に係る市民ワークショップについて 2 現行総合計画の推進状況について 3 第2次西脇市総合計画の構成について
会議の記録（概要）	
発言者	<p>&lt;開会&gt; 資料確認</p> <p>&lt;あいさつ&gt; 年末の多忙なところ、審議会に御出席いただき、感謝申し上げます。審議会も第3回目となり、雰囲気にも慣れてきたかと思う。積極的な発言をお願いします。</p> <p>今回は、統計資料やアンケートから現状を認識した。本日は、これまでの具体的な施策の進捗なども踏まえて、更に現状把握に努め、今後の方向性について意見を伺いたいと思う。宜しくをお願いします。</p> <p>なお、会議は出席委員14名で、西脇市総合計画審議会条例第5条第3項の規定による定足数を満たしており、会議</p>
事務局	
会長	

	が成立していることを確認する。
事務局	<総合計画策定に係る市民ワークショップについて> 資料1に基づき事務局から説明
委員	無作為 3000名のアンケートでワークショップへの参加希望14名というのはい多いのか、少ないのか、妥当なのか。
事務局	これまでは各種団体等への依頼や広報での募集が多かったが、今回は広く募集する形をとった。0.5%という割合は、都市部に比べると少なかったかもしれない。
会長	ワークショップにはいろいろなやり方がある。テーマを絞ると関心のある人が集まるが、総合計画というテーマはやや漠然としたものになるので、集まりにくいところがあると思う。 感想としては、総合計画をテーマに、これまで機会がなかった人を選び出すことができたという点で、良かったのではないかと評価できる。
委員	兵庫県が長期ビジョン（地域ビジョン）見直しの際に実施したワークショップ（加東市）では、80名の定員に対して50名の応募、40名の参加だった。なかなか期待通りの参加がないのが実情である。
副会長	こうした取組は大事である。一度の開催で参加人数が少ないとしても、担い手を育てるという意味では回数を重ねることが大切。いろいろな人が参加することで、担い手の輪も広がる。
会長	ワークショップは参加人数の多寡のこともあるが、意見を持つ人が集まり、そこで議論してもらい、新しいアイデアやコンセンサスを得ることが重要である。今回は、積極的な人が参加したということで、一定の成果になったと考える。
事務局	<現行総合計画の推進状況について> 資料2に基づき事務局から説明

会 長	<p>行政による自己評価・点検になる。質問、コメントなどがあればお願いしたい。</p>
委 員	<p>産業経済分野における厳しさが示されている。いかに地域経済が停滞しているか。経済界としても、地場産業の振興・宣伝に努めているが、上向かない。中間素材を扱っていることで日の目を見るのが少ない。基幹産業である播州織の生産は 300億円あるかないかで、年々減少傾向にあり、昨年度は13%、今年度は17~18%の落ち込みが予想される。世の中の傾向もあるが、先染織物に陽が当たっていない。</p> <p>わが国の経済は、大手企業が内部留保を積み上げるなど回復傾向にあるが、諸手を挙げて良いとはいえない。本市では資本金1億円以下という企業も多く、経済回復の効果が及んでいない。</p>
会 長	<p>行政による評価においても好ましい結果は出ていない。例えば環境分野等なら、行政が取り組むことで成果をあげることが可能な部分も多いが、産業経済の振興分野に行政がどのように関与できるか、難しいところがある。評価については仕方ない面もある。</p>
副会長	<p>教育・文化・スポーツ分野に関心がある。「第3章 ころ豊かな人が育ち、いきいきと活躍できるまち」に集約されるだろうが、ここも大事なところだと思う。成果があがっていない部分について、誰が悪いというのではなく、この分野をどのように向上させるか、どのように取り組んでいくかという方針を打ち出してほしい。</p> <p>近年はいじめの問題などもあり、教育委員会との横の関係も含め、望ましい方向・施策を考えてほしい。</p>
委 員	<p>教育委員会でもいろいろな立案を行い、生きる力を育んでいると理解しているが、こうした評価になっていることについては、教育委員会にも聞きたいと思う。</p> <p>これまでの取組を考え直す必要があるかもしれない。</p>
事務局	<p>教育の分野では、学力の向上や英語の科目化などの課題を前に、まだまだ道半ばと、自戒の意も込めてより厳しい</p>

	<p>自己評価をされている印象である。成果をあげるには教育委員会だけでなく、家庭や地域の協力も必要になる。</p>
<p>委員</p>	<p>農業に関する政策指標で、平成26年度から統計データがなくなっている。総合的な評価をする時、どのようなデータを用いるのか。</p>
<p>会長</p>	<p>成果指標をどのようなものにするか、判断が難しい部分がある。例えば教育分野なら具体的な事務事業の指標（数値）が取りやすいが、産業分野では国の統計以外に取りにくい。</p>
<p>事務局</p>	<p>関係者への聞き取りによる数値は把握していると聞いているが、統計調査がなくなり、データがなくなった。大きな課題と考えているので、新しい総合計画では別の指標にしていくことも必要だと考えている。</p> <p>農業振興については、施策評価としてはかなり進んでいると考えている。従事者の高齢化や子牛価格の高騰の問題など難しい面もあるが、個性的な農産物の生産が広がり、PRによって市民の認知度も高まっている。</p>
<p>委員</p>	<p>「生きる力をはぐくむ学習の展開」の施策評価がBとなっている。正直に評価された結果なのだろうが、体制に問題があるのか、それとも取組内容の妥当性に問題があるのか。原因を探っていく必要がある。</p> <p>産業については成果の計測は難しい。農業については評価がBでも、若者の就農などの成果もみられる。評価の仕方による部分もあるのではないかな。</p>
<p>会長</p>	<p>目標を高く設定すると、実現が困難なものになる。そうした点も勘案して評価をみていく必要がある。</p>
<p>副会長</p>	<p>「男女共同参画社会の形成・推進」や「多文化共生社会の推進と平和意識の醸成」などは大きなポイント。市民ワークショップでは、海外から移り住んだ人が疎外感を感じたという意見がある。そういう人を暖かく包み込むことが豊かな地域社会の形成だけでなく、産業振興にもつながっていくかもしれないと考えている。</p>

会 長	<p>現行の総合計画の中間評価は現状の確認であり、これを踏まえて次の総合計画について考えてもらうことになる。そうした視点でご覧いただき、質問等があれば、随時、事務局まで問い合わせていただければと思う。</p>
事務局	<p>&lt;第2次西脇市総合計画の構成について&gt; 資料3に基づき事務局から説明</p>
会 長	<p>次の総合計画では、なにを共有し、どのような方向でまちづくりを進めるべきであるのか、キーワードやコンセプトについて意見をいただきたい。</p>
委 員	<p>仕事で障害者支援を、また、市民グループで男女共同参画に取り組んでいる。</p> <p>共通するのは、誰でも一人の人間として、その人らしくその人なりに、という考え方で活動していることで、キーワードとしては「安心して生活できる」ということではないか。</p> <p>学校で先生や教育委員会がやろうとしていることと、アンケートに答える人では、子どもに対する考え方が異なる。今、取り組んでいることへの評価も、その人なりの価値観による。周囲の理解も必要、自らの努力も必要だが、多様な視点で見られるようなまちになるとよい。</p> <p>例えば、「男性だからバリバリ働き、女性だから家事をする」という考え方について、それがよい人はそれができる、でも働きたい女性は働ける、といったように、子どもたちが周りにいる大人は様々だ、と思えることが良いことだと思う。</p> <p>今、困っている人へのアプローチだけでなく、今やっている取組が20～30年後、まちにどのように反映されていくのかという視点も必要だと思う。</p>
会 長	<p>その人がその人らしく、その人なりの活躍ができる条件、というのは重要な視点である。提示されている3つの視点は、例えば他都市でも同じコンセプトにすることが可能である。総合計画という性格上、仕方ないところもあるが、強調すべき、あるいは新しい、地域に即した視点、表現があるとよい。</p>

<p>委員</p>	<p>地域活性化においては、観光資源を活かした交流人口の増加を図りたい。西脇市には郷土資料館があるが、市外から人は訪れてこない。交通の便もバスしかなく、良くない。JRも新西脇で降りてからの交通手段がない。新たに資料館をつくるのではなく、改修等で交流を図りたい。</p> <p>特に観光を含めて交流を大きな柱にしてほしい。例えば播州織を活用し、ミシンで好きなものをつくってもらう体験の場づくりなど、コト消費に対応したい。</p> <p>地場産業を発信するなら、地道に取組を進めていかなければ大きな工場には勝てない。地場産業の灯を消してはいけないが、肝心の芽が出てこないのが現状である。地域資源＋観光の組立てに期待する。</p>
<p>委員</p>	<p>他地域から西脇市に移住してきたデザイナーは頑張っているが、市外には発信できていない。取組自体は高評価を受けており、自信を持って脚光を浴びる機会をつくれればよい。</p>
<p>会長</p>	<p>「交流」の観点も重要である。外に向けた情報発信・PRもひとつのキーポイントになる。</p>
<p>委員</p>	<p>参考までに、都市像の「人輝き 未来広がる 田園協奏都市」は合併時、エベネザー・ハワードの『田園都市論』をイメージして策定した。協奏都市を実現していくためには、人の育成が必要である。</p> <p>今回の議論で、市民参画や協働は「ともに」といったキーワードでまとめられないか。活性化部分については、皆さんと考えていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>例えば市民参画や協働なら、「支え合う」など聞き慣れた言葉が良いのではないか。</p> <p>人口減少、少子高齢化、限界集落などの問題がある中で、何が西脇にとって一番大切か。それは魅力あるまちであること。人口減少や地場産業の厳しさはあるが、市民ワークショップ資料でも示されているように、自然や災害の少なさといったよい点がある。一方、交通の利便性などの点で良くないところもある。</p> <p>都会的ではないが、住むと和（なご）める魅力のあるまち、輝くまちを市民が支え合ってつくっていくしかないの</p>

<p>委員</p>	<p>ではないか。</p> <p>大切にしたいキーワードは漠然としていて、これといったものはまだ示せないが、資料3の参考資料にある「市民が主役！地域が主体！」、特に「地域が主体」という部分に共感する。私が住むのは110軒からなる町内会だが、夏の素麺流し、年末の餅つき大会など、年間の行事は10以上あり、声を掛け合うことで50～70人が参加している。地域のつながりが強くなれば世代を超えた参加もできるようになり、それが次世代につながることでふるさとの創造にもつながる。そうしたことを大切にしたい。</p>
<p>委員</p>	<p>人口、財政など、現実のまちを取り巻く環境は厳しくなるが、前向きな姿勢を市民に示すことはよいと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>私は丹波市で生まれ、結婚を期に西脇市に来た。当時は丹波からみると、播州の嫁に行くのは羨ましがられることで、西脇市はすばらしいところだと思っていた。</p> <p>西脇市は本当に良いところだと思っているが、最近、加西市や加東市に比べて新聞などに載ることが少なくなっているように感じる。もっとアピールしてほしい。良いところを発信し、もっとアピールして、みんなに分かってもらうことが大事ではないか。</p> <p>ふるさとを愛する人を育てることが大切だが、その基礎になる教育文化分野の評価が芳しくない。知識先行で基本的な生活習慣等を見に付けることが疎（おろそ）かになっていないか。親も勉強ばかり重視する人が多く、教員にも受検競争の環境で育ってきた人は多い。働く場があっても子どもが出て行くとすれば、基本的な生活習慣や親の育て方も考える必要がある。</p>
<p>会長</p>	<p>人口の流入や外部から来訪してもらうことだけでなく、まちにとどまりたいと思う人を育てる、というアプローチも必要である。</p>
<p>副会長</p>	<p>「ともに」や「支え合い」に共感を覚える。次の10年のキーワードだろう。市民参画や安全・安心の方向を示すに当たって分かりやすい言葉だと思う。</p> <p>地域活性化の側面でもそうした要素を含ませてはどうだ</p>

	<p>ろうか。例えば「共発」など、どのセクターにおいても「ともに」「支え合う」という印象を出せるとよい。</p> <p>活性化の部分では「ターゲットを明確にし」という表現があるが、支え合うなら「ガツガツ」した感じはない方がよく、その方が西脇らしい。</p>
委 員	<p>地域再生や農業振興では“内発的”という表現をされていた。「共発」は、内発と外発を合わせたようなイメージと考えてよいか。</p>
副会長	<p>そうしたニュアンスでよい。</p> <p>内発的発展は多くの自治体、特に農山村でキーワードとして使われてきた、内側からことを起こすというもの。しかし、実際には移住者や交流人口など、集う、触れ合うという部分が必要。共発的発展という考え方はこの10年くらいに農業経済分野から出てきたもので、外部とのつながりも大切にするというものであるが、今後10～20年におけるキーワードのひとつになるのではないかと考えている。</p>
委 員	<p>昨日、兵庫県主催の農業者等法人化セミナーに参加してきた。農林水産省からも出席されており、その中で、農業では経費や手間など目先のことがネックで法人化が遅れている、個人とは異なり法人は亡くならない、法人化により信用度や人材育成など目に見えない価値が大きい、などの話があった。法人化によって地域における農地や人材の継承が可能となる。農業者等の内発的発展により、法人化を進めることが地域を守ることにつながる。</p>
会 長	<p>農業の持続可能性を高める上で、法人化は有力な手段のひとつだが、進んでいないのが現状のようだ。</p>
副会長	<p>現計画のキャッチフレーズに問題はないと思う。これを持続しつつ、現行計画の反省のもと、どう改善するかが大切である。将来像を考えるのであれば、ワークショップのうな方法で議論しなければ、まとまらない気もする。</p>
会 長	<p>本日は、まちづくりのキーワードやコンセプトについて様々な意見をいただいた。次回はこれまでの資料や皆さんの意見を素材として、行政内部で検討していただき、それ</p>



<p>委員</p> <p>事務局</p> <p>会長</p> <p>会長</p> <p>事務局</p>	<p>をもとに議論を進めていきたい。</p> <p>現行計画の将来像は少し堅い印象も受けた。市民が受け止めやすいような将来像を検討してもよいかもしれない。</p> <p>今後も市民ワークショップのようなものを実施されると思うが、可能であれば場所を変えて実施するなどすれば、参加者も多くなり、おもしろい意見が出るかもしれない。いろいろな工夫を凝らしてもらえればと思う。</p> <p>市民意向を伺う市民ワークショップは3回開催したところであるが、従前と開催日時を変更するなど試行錯誤しているところである。また、今月には対象者を変えて、高校生、大学生のワークショップを予定しており、若者の意向を聞く予定である。これについても後日報告させていただきたいと考えている。</p> <p>それでは、次回の会議では、今回の議論も踏まえながら基本構想、将来像の案を事務局から示してもらい、それに沿って議論したいと思うがそれで良いか。</p> <p>(了承)</p> <p>次回の議論は特に重要になる。</p> <p>本日は限られた時間のなか、活発な議論をいただいた。資料に関する疑問点などがあれば、事務局までお尋ねいただきたい。</p> <p>以上で議事を終了する。</p> <p>事務局から連絡事項があればお願いします。</p> <p>次回の開催日程については、2月23日午後1時半からを予定している。よろしくお願ひしたい。</p>
<p>問合せ先</p>	<p>西脇市都市経営部次世代創生課</p> <p>TEL 0795-22-3111 / FAX 0795-22-1014</p>